

NPO緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

第6回全国一斉

EM団子・EM活性液投入に参加

相野谷川に団子2千個、

活性液1トンを投入



家庭から出る雑排水、農畜産業からの排水、工場からの排水など全ての汚染は川などから海へ流れます。人間の営みは常に海を汚染していることでもあります。

これらの反省と海への感謝の気持ちから、2010年以来、海の日をEMの日と位置づけ、全国の仲間と共にそれぞれの地域の河川・湖沼・海へEM団子やEM活性液を投入する環境浄化活動を行っています。

NPO緑の会は、7月18日に阿見緑の会や福岡堰土地改良区の皆さん、それを通り掛かった親子連れも加わり、



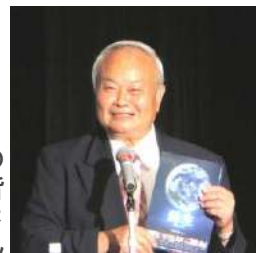
相野谷川に団子2千個、活性液1トンを投入しました。

終了後は、近くの親水公園でお茶会が開催され楽しいひと時を過ごしました。

「善循環の輪 埼玉南部の集いin戸田」 6月5日 戸田市笹目「ミニコミュニティセンター」で開催

同集いは、NPO戸田EMビールネット設立15周年記念事業として開催されたもので、NPO緑の会からの参加者も含め、会場にはおよそ600人が参加しました。

「EM技術の最新情報」と題する比嘉教授の講演やEM研究機構の奥本部長による「海外事例」の講演、さらには地元4人の活動家による「EM活用事例」の発表など多彩な報告がありました。戸田市では、ビールネット



講演中の
比嘉照夫教授



挨拶するNPO 戸田
EMビールネットの
池上幸子理事長



の皆さんの生ごみ堆肥化活動を戸田市がサポートしながら推進し、リサイクルフラワーセンターを設置し、このセンターで生産された24ポットの花苗と家庭から持ち込まれた生ごみバケツ1杯と交換する事業を展開しています。

現在、この事業に登録しているのは600世帯。

また、農業の盛んな三郷市と友好都市を結び、生ごみ堆肥を農地で使う取り組みを行っています。



石岡市東の辻池の浄化
石岡市から委託され再開
ここ数年、中断していた東の辻池の浄化は、本年7月から10月まで正式に石岡市から委託され、再開することになりました。
実際には、浄化活動の大半を石岡緑の会にお願いして実施することになっており、県外からも視察に訪れるまでにきれいになった池の、一層の浄化が期待されています。

石岡市東の辻池の浄化 石岡市から委託され再開



霞ヶ浦をきれいにする会、新体制で 活動拠点を「高浜船溜まり」に拡大

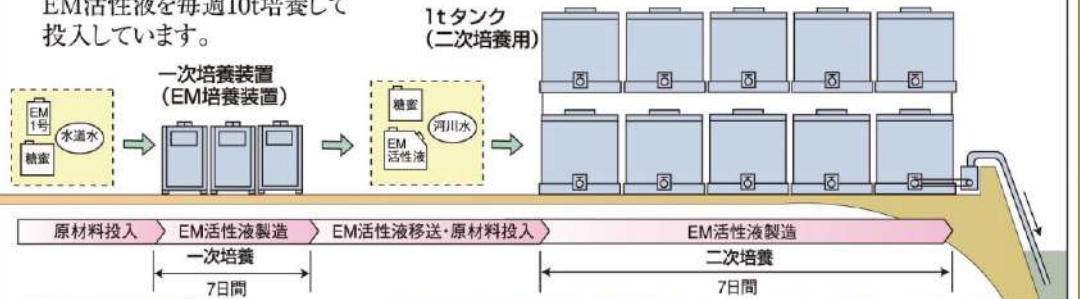
霞ヶ浦をきれいにする会は六月の総会で新たに「鈴木せつ子」代表を選出し新体制で臨むことになりました。
きれいにする会では、霞ヶ浦に流入する河川や池にEMを投入することで活動してきましたが、かねてより霞ヶ浦に直接EMを投入することを希望していました。
それが、石岡市の「高浜船溜まり」に投入することで実現することになりました。

高浜船溜まり維持管理組合

江橋儀一(会長) 快く協力して下さることにになり、毎月第一日曜日に霞ヶ浦の一角にある高浜船溜まりに、EMを投入することが決まり、早速7月5日から開始されました。
この船溜まりは日頃から多くの漁業関係者が使用しますので、浄化が成功することによって、EM効果が周知されることで、大いに期待されることです。

日本橋川の掘留橋近くに設置された、10トンタンクのEM培養装置 これの管理・運用をNPO緑の会が委託を受けました。

■ 装置概要 タンク容量330リットルの一次培養装置3台と二次培養用の1tタンク10基を用いてEM活性液を毎週10t培養して投入しています。



左は一次培養装置。右が二次培養装置。循環用パイプで11タンクが10基連結されています。



Uネットから委託を受けたNPO緑の会では若手会員の鈴木勝也さんが、担当することになりました。
この8月から、毎週木曜日に現地に出向き、一日仕事の難しい作業に取り組んでいます。

編集後記
最近の科学では、遺伝子の解読が行われるようになった。つまり人間の設計図を読むことができるようになった。しかし、読めるということは、誰かが書いたはずである。では誰が書いたのか、神か仏か？村上和雄博士はそれをサムシング・グレートと名付けました。